

# 郷土かわらばん

## 「教育を皆に」私立鎚木学校

かわらばん四号では、千葉の近代教育の始まりとして、印旛官員共立学舎と流山学校を取り上げました。その後

官立学校は増えていきましたが、当時の建築事情や財政を要因とし、教育が行き届かない地域もありました。今回紹介する私立鎚木学校は、そのような状況を憂いた人々よって設立されました。

流山市駒木台には鎚木学校を設立した鎚木平馬・佐内父子を称える石碑があり、鎚木学校があったことを物語つ

ています。本号では、設立の経緯と学校の様子を紹介します。

### 鎚木学校設立まで

明治六年一八七三十月、青田新田、駒木新田、十太夫新田、初石新田、大畔村、大畔新田、三輪野山村、駒木村以上現流山市、篠籠田村、高田村以上現柏市の十カ村は、千葉県に対し駒木村の成顕寺に官立学校を設立したいと願い出ますが、実現には至りませんでした。そのため、駒木新田と青田新田の人達の一部は明治七年一八七四十一月、十余二村の伊勢原現柏市に建てられた三井学校に通学し

ていたと考えられています。

ここで教鞭をとっていたメンバーに、鎚木佐内の名前があります。また、三井学校設立のために駒木新田、青田新田の有志が寄付を行った資本金寄帳の中には、鎚木佐内の父・平馬の名があります。佐内は平馬に学校設立をすすめ、平馬はその私財を供して明治十年三月、駒木新田の屋敷内に、私立鎚木学校を設立しました。この設立に際しての資本金寄



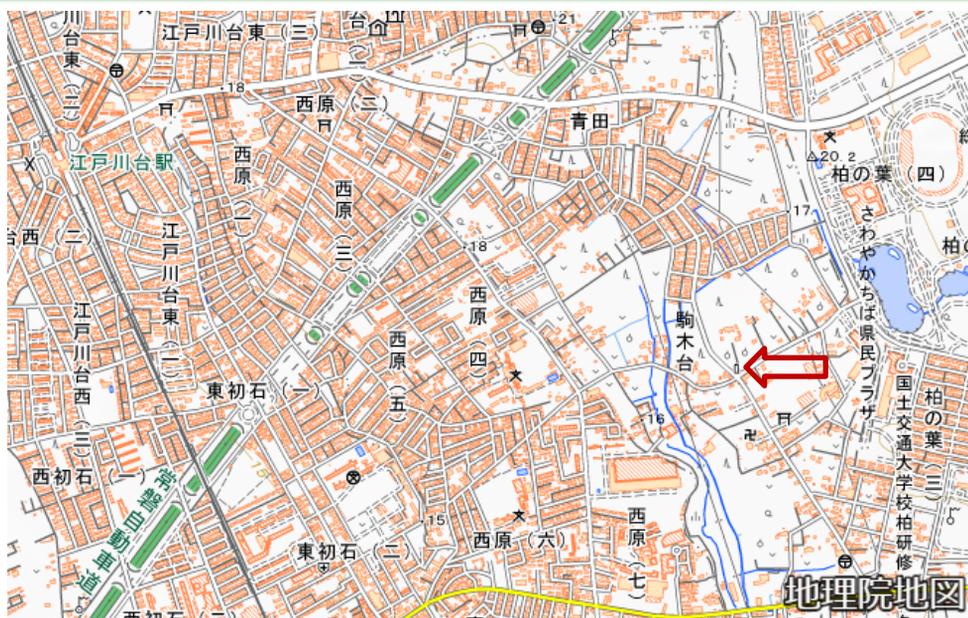
「鎚木学校発祥の地」碑

森の図書館  
twitter  
@N\_mori  
noto



発行  
流山市立  
森の図書館  
指定管理者  
株式会社  
すばる

帳には、三井学校設立に寄付した名士も何人か名を連ねており、地域にとって、学校の誕生が待ち遠しかったことがうかがえます。



地理院地図 千葉県流山市駒木台（参照日 2020-2-17） ←が「鍋木学校の碑」所在地

## 鍋木学校で学ぶ

次に、学校の様子について見ていきましょう。校則によると、鍋木学校は、課程を十級に分け、一級を半年とし、在学を五年としていました。

また、家庭の環境が就学開始年齢に深く影響を与えていたこの時代、入学金を徴収していませんでした。当時としては異例で、鍋木学校が家の貧富を問わず学生を迎え入れようとしたことがわかります。

卒業に関しては、学業の修了を重視しており、学齢を超えても、各教科を修めるまで在学することができました。

こういった学校の姿勢が、地域に愛されていたからでしょうか、人々は、三月、五月の節句、盆（八月）、暮（十二月）、年始（一月）に季節の饀物を届け、感謝の意を表していました。

鍋木平馬・佐内父子の悲願であった官立学校の設立は、鍋木学校が明治十九年（一八八六）に

公立学校として認定される事で果たされました。その後、校名を何度か変え、現在の八木北小学校となっています。

### 参考文献

・流山市立博物館 『流山市史 通史編Ⅱ』  
流山市教育委員会 2005年

・流山市教育委員会市史編さん室編

『流山市史 近代資料編・八木村誌』

流山教育委員会 1982年

・『学校』 流山市立博物館

1997年

・『ふるさと流山のあゆみ』

流山市教育委員会 2018年

協力 流山市教育委員会

流山市立博物館・図書館